

G空間情報センター

ニュースレター 第24号 2021年3月発行

【目次】

- [1. TOPICS 「アーバンデータチャレンジ with インフラデータチャレンジ 2020 を振り返って」](#)
- [2. 上位アクセス状況\(集計期間：2021.1.1-2.28\)](#)
- [3. 最新のお知らせ](#)
- [4. 地理空間情報でもっと楽しく！～G空間情報センターへの期待～](#)
- [5. 注目のコンテンツ紹介](#)
- [6. 「G空間と私。」寄稿募集](#)

1. TOPICS 「アーバンデータチャレンジ with インフラデータチャレンジ 2020 を振り返って」



東京大学空間情報科学研究センター 瀬戸 寿一
(アーバンデータチャレンジ 2020 実行委員会事務局)
(写真は 2019 年 3 月撮影)

1. 通算 8 年目となるアーバンデータチャレンジ (UDC) の新たな挑戦

アーバンデータチャレンジは、社会基盤情報を用いた地域課題解決を掲げた通年型のデータ活用型コミュニティ活動と公募型コンテストとの融合を特徴として、2013 年度当初はアーバンデータチャレンジ東京として産声をあげ、今年 2020 年度で通算 8 年目を迎えました。始まった当時は、日本でも「オープンデータ」のキーワードが徐々に聞こえてくるようになり、「シビックテック」(情報通信技術とデータを駆使することで、市民自らが身近な地域でサービス開発やデータ活用を行う活動)も少しずつ立ち上がりつつある時期でしたが、この間の全国的な進展は目を見張るものがありました。このようなデータ活用を

担うコミュニティづくりを支援し社会基盤情報技術を普及・展開するために、UDCでも2014年度から地域拠点の設置などを行いました。2019年度からは「UDC第2期」と位置づけ、重点分野として毎年注目するデータ活用分野を見据えた活動を行い、土木学会「インフラデータチャレンジ（IDC）」とも共同運営体制を取ることで活動の幅を広げてきました。

COVID-19禍が深刻化しつつある中、2020年度のUDC with IDC 2020をどのように行うか議論を重ねた結果、UDC自体の新しいチャレンジとして、地域拠点ごとのオンラインでのコミュニティ活動を引き続き最大限奨励するとともに、実行委員会が平日夕方に気軽に参加できるウェビナーを土木学会土木情報学委員会「インフラデータ・サービス共創研究小委員会」とタイアップし、計5回（UDCのテーマで2回、IDCのテーマで3回）実施し、延べ430名の皆さんに参加いただきました。この人数は年間3回開催されるシンポジウムの累計に匹敵するほどの人数で、UDCやIDCをこれまでご存じなかった皆さんが多く参加頂いたようです。またここ数年の作品応募傾向から、シビックテックに適した作品だけでなく、すでに民間ビジネスとして完成している作品やアカデミックと地域課題解決との架け橋となる作品が多くなってきたことから、今年度より「ビジネス・プロフェッショナル」部門を新設することにしました。

重点分野に関するウェビナー主催 (5回開催・延べ約430名参加)

- 8/21 インフラデータチャレンジ2020 ウェビナー#1「点群データを活用しよう」**110名**
- 9/30 インフラデータチャレンジ2020 ウェビナー#2「インフラ画像&動画を大解剖」**81名**
- 10/14(水) UDC2020 ウェビナー#1「What Works Cities（米国）を紐解く～データ／エビデンスを活用した地域課題へのアプローチを再考する～」**85名**
- 11/11（水）インフラデータチャレンジ2020 ウェビナー#3「ドローンやデータを活用して橋梁を守ろう」**76名**
- 11/20（金）UDC2020 ウェビナー#2「ジャパンサーチを使い倒す！／生活・文化・地域アーカイブの観点から」**82名**



2. 第2期・2年目のUDC with IDC 2020 最終審査会とその結果

そして、UDCの1年間を締めくくる最終審査会が、2021年3月13日（土）にオンライン形式で開催されました。全国から応募された155作品の中から一次審査を通過した**ファイナリスト 20作品**（一般部門：15、ビジネス・プロフェッショナル部門：5）によるプレゼンテーションが実施され、参加者投票の結果と合わせ、厳正な審査の結果、最終的な受賞作品をそれぞれ決定しました。

UDC with IDC2020 全体の最優秀作品となる金賞には「**ガタリコ（チームガタリコ）**」が選出されました。これは、主に新潟市内の子育て世代のママ向けに様々なデータを整備し開発された、生活の利便性向上を目指すスマートフォンアプリケーションです。また、今年度初のビジネス・プロフェッショナル部門の最優秀賞には「**道路の三次元点群データ配信基盤（インディゴ・ラボチーム）**」が選出されました。これは、大容量の三次元点群データを効率よく参照・利活用できるWebブラウザベースの配信基盤で、共

同運営する土木学会インフラデータチャレンジとも親和性の高い作品でした。金賞・最優秀賞ともにデータプラットフォームを意識した非常に完成度の高い作品が受賞しました。

今年度は、対面や現場での活動自体が制限される中ではありましたが、ファイナリストを含め応募された多くの作品の完成度は高く、各選考段階でも審査が難航することもしばしばありました。なお、今年度の地域拠点としての活動で最も優れたベスト地域拠点賞には「新潟ブロック」が選出されました。これに伴い、次回 2021 年度のアーバンデータチャレンジが予定通りのスケジュールで開催される際には、中間シンポジウム（例年 10～11 月）を新潟市内で開催することとなります。来年度のアーバンデータチャレンジの活動にもご注目ください！ぜひ、お楽しみに！



受賞された皆さんと UDC2020 実行委員による記念撮影

2.上位アクセス状況(集計期間：2021.1.1-2.28)

登録ユーザー数	7,903 名
期間アクセス数	297,286
登録組織数	462 件
データセット数	5,750 件
ファイル数	52,386 件

人気のデータセット

1	静岡県 富士山南東部・伊豆東部 点群データ
2	通行止め情報
3	将来人口・世帯予測ツール V2 (H27 国調対応版)
4	兵庫県_全域数値地形図_ポータル (2010 年度～2018 年度)
5	長野県 _CS 立体図
6	道路交通情報 Now!!
7	兵庫県_全域 DEM (2010 年度～2018 年度)
8	道路キロポスト
9	断面交通量データ (位置情報付) 提供 API
10	国土数値情報 (駅別乗降客数線)

3. 最新のお知らせ

G空間情報センターの最新のお知らせは[こちら](#)

最新のデータ公開情報は[こちら](#)

G空間情報センターイベント最新情報は[こちら](#)(Peatix)

4. 地理空間情報でもっと楽しく！～G空間情報センターへの期待～

みなさんこんにちは！先日 G 空間情報センターのトークライブイベントでお世話になったアジア航測チーム釣りドコです！

G 空間情報センターと聞くと、測量・建設コンサル企業に所属する我々は地図や土木・設計のイメージしか思い浮かばなかったのですが、携帯電話の位置情報、イベント情報、行政情報など、実にバラエティに富んでいることに驚きました。

私達は、建設分野で生まれた航空レーザ測深 (ALB) という水中の地形が計測できる技術を「釣り」という別の分野に適用した「釣りドコ」サービスを開始しました。

釣り人向けの Web サービスなんですが、実は釣り業界とは全く縁のない航空測量会社で作ったんです。その秘密はこちら

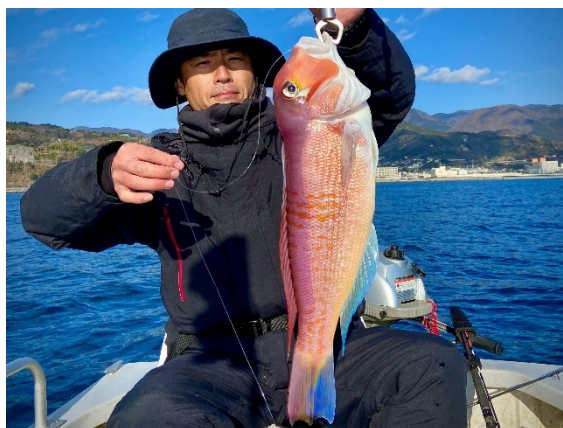
G 空間情報センターで扱っているデータは種類が非常に豊富でかつ簡単に入手できるのが特徴です。

釣りドコで初めてオープンデータを活用した時も特に難しいことはなく、欲しいデータがスムーズに入手できたのでとっても便利でした (ので皆さんもぜひ気軽に活用してみてください)。

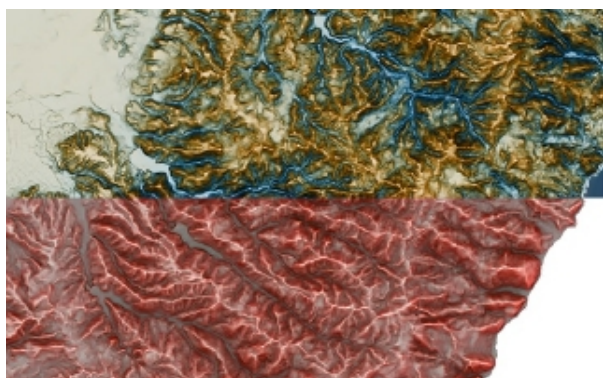
地理空間情報はその他の分野との組み合わせで地域活性や新しい価値を創造できる可能性があり、アーバンデータチャレンジ (UDC) もまさしくそうした取り組みの一つではないかと思います。今回トークライブイベントを終え、改めて AIGID や G 空間情報センターにはそんなことがもっとできそうな可能性と魅力を感じました。

私達は今後も G 空間情報センターに集う皆さんとタッグを組み、新たな価値の創造や地域課題の解決に貢献していきたいと考えています。

チーム釣りドコの G 空間情報センターサイトは[こちら](#)



5.注目のコンテンツ紹介



微地形表現図

朝日航洋（株）の陰陽図とアジア航測（株）の赤色立体図を並べました。それぞれの特徴が良く表れています。

（株）MIERUNE は CS 立体図を作成する QGIS のプラグインを登録しています。プラグインを使って、CS 立体図も併せて見れば、面白いかも…。

朝日航洋__陰陽図は[こちら](#)

アジア航測__赤色立体図は[こちら](#)

* /red01(北海道)～/red47(沖縄県)

6.「G 空間と私。」寄稿募集



G 空間情報との関わりをテーマにしたエッセイを募集します。

ご自身がどのように G 空間に関わっているか

G 空間情報を活用してどのように社会課題解決に挑戦しているか

より多くの皆様に G 空間情報の利活用のキッカケになるものをお待ちしております。
(*事業紹介でも結構ですが、社会に役立つことが前提となるような内容をお願いします)

応募要項等詳細は[こちら](#)(PDF)

ご意見・ご要望について

G 空間情報センターは、高度な地理空間情報社会の実現と皆さまの事業の発展に寄与・貢献できることを目標としています。

当センターへのご要望、ご意見、ご助言等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。
最後までお読みいただき、ありがとうございました。

G 空間情報センターのユーザーアカウント登録は、[こちら](#)

G 空間情報センターのご要望、ご意見は、[こちら](#)

一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会(AIGID)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-10-5 代々木伊藤ローヤルコーポ 304 号室

メール : info@geospatial.jp

TEL : 03-6455-1845

※当ニュースレターの内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。